映画カフェの紹介

保田與志彦
MuGicafe オーナー/むぎの部活動！「えいが部」部長

私は桑名で小さいながらカフェのオーナーをやっています。飲食店経験が全く無い私ですが、周りからウチのカフェのスタッフは個性的だと言われているその原点となったのが、この映画なのかなぁと振り返っております。

『ビリィ・ザ・キッドの新しい夜明け』

１９８６年　パルコ　１０９分
監督　山川直人
脚本　高橋源一郎、山川直人
出演　三上博史、真行寺君枝、石橋蓮司

とある酒場「スローターハウス(屠殺場)」に迷い込んだ、三上博史演じる「ビリィ・ザ・キッド」。店員は「中島みゆき」「宮本武蔵」「マルクスエンゲルス」「１０４(電話の天気予報)」「サンダース軍曹」という個性派揃い。ギャングである「シャーロット・ランプリング」や「ブルーススプリングスティーン」達と戦う…書いている今考えてみてもハチャメチャな映画なのです。

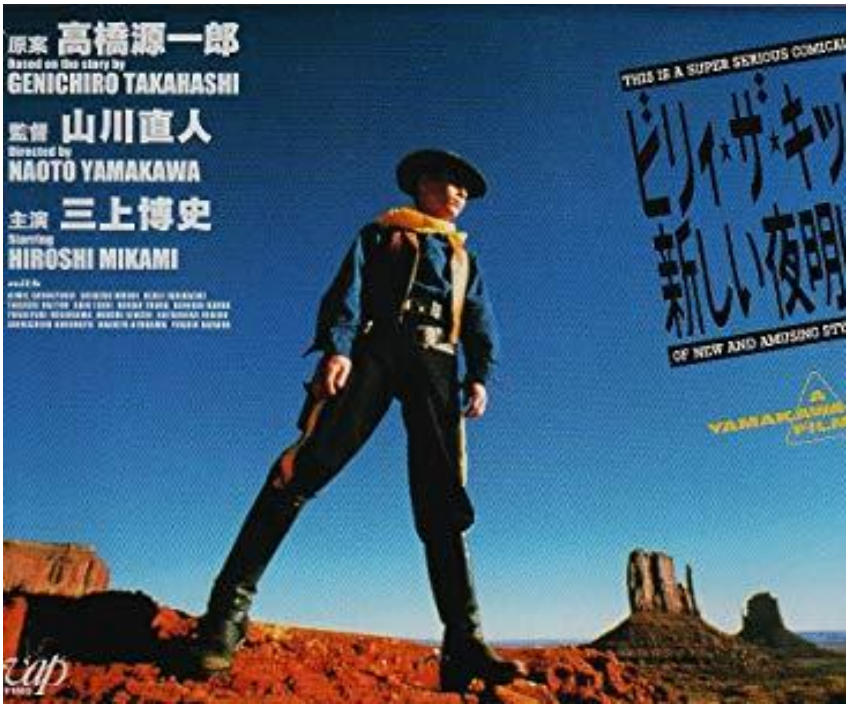
原作・脚本は、「優雅で感傷的な日本野球」で第１回三島由紀夫賞を受賞した、小説家の高橋源一郎。彼の小説たちを混ぜ合わせ繰り広げられる物語で、沢山の個性的な脇役が饒舌なセリフを発する室内劇は、まるで演劇を見ているかの様。

「ヒーラモンスターを言い表せない」
「かつてスパゲッティボンゴレだったもの」
「ジョンレノン対火星人」

劇中のセリフには意味が分からないものが多いですが、抽象化したり過去の価値観をぶち壊したりして、物事の意味を問いただしているとも取れる表現で、映画全体は学生紛争で大

学を追われた高橋氏の青春群像を、アイロニックに表現したものであると思われます。

この映画はパルコ製作第一弾映画。監督は村上春樹の短編小説「パン屋襲撃」を作った山川直人監督で、その後「SO WHAT」などを手掛けるも映画界では見かける事は無くなってしまったので非常に残念です。パルコの方も第二弾の小林薫主演「ウンタマギルー」以来、製作を行っていので、なかなか興行的に芳しくない結果だったと思われます。こう言った遊び心やイマジネーションをかき立てる作品が、沢山出てくる環境になれば良いですよね。

酒場の名前の「スローターハウス」は、アメリカの作家カートボネガットの「スローターハウス５」から来ているし、「七人」で店を守る設定は当然黒澤明監督の「七人の侍」からくるもの。映画・文学好きにはたまらない、何度見ても新鮮な８０年代的なポップさが詰まった大好きな作品です。

第二土曜日の夜、桑名の「MuGicafe」で「えいが部」開催しておりますので、映画好きのかた、楽しく語り合いましょう。